

授業に活用

ヘルメットなど

仙台工高に寄贈

仙台電気工事協組

仙台電気工事事業協同組合(仙台市若林区)の青年部会は、仙台工高(宮城野区)に授業で使うヘルメット15個、電線の被覆を剥ぐストリップ5丁、スイッチ、コンセントなどの備品を贈った。

贈呈式が8月29日であり、電気科の2年生6人が参加。青年部会の菅野大樹会長は「地域振興の一番の担い手である建設業に関心を持ってくれたらうれしい」と伝えた。

渡辺匠英さん(17)は「頂いた器具は以前の物より使いやすい。作業効率を上げ応用も学びたい」と語った。春日川孝校長は生徒に「器具を使って学び、現場で働けるように力を付けてほしい」と話した。



菅野会長(右)からヘルメットを受け取る仙台工高の生徒